

吉田ルミ子
(図書資料部)

ラテンアメリカ社会科学協議会 (Consejo Latinoamericano de Ciencias Sociales, 略称 CLACSO) は、ラテンアメリカ地域の社会科学分野の各学術機関ならびにセンターを結集する民間の、非営利的な性格の国際機関であって、ユネスコの活動の一端を担っている。

正式な発足は1967年10月であるが、発端は1964年10月に開催されたラテンアメリカ比較社会学会議にさかのぼる。当初、アルゼンチンのトルクアト・デイ・テーリャ研究所、メキシコのエル・コレヒオ・デ・メヒコ大学院大学、ペルーのペルー問題研究所、ベネズエラの中央大学付属開発研究所の4機関が中心となり、社会科学の常設的調整機構の発足へのよびかけを行なったことが契機となった。

協議会の基本目的は、会員各機関の発展と会員相互の協力ならびに交流の促進にある。このため、当該地域における社会科学の、特に方法論および応用的研究を重視し、さらに後者について、協議会は、ラテンアメリカならびに全世界の諸問題に関する「ラテンアメリカ的解釈」(Interpretación latinoamericana) の形成に貢献するよう努力するとしている。

機構はごくシンプルであって総会、理事会および事務局で構成される。ちなみに初代事務局長はアルド・フェレール(1967~70年期)、第II期(1971~75年期)はエンリケ・オテイサ、第III期(1976~79年期)と第IV期(1980~83年期)はフランシスコ・デリッヒ、第V期(1984年~)はフェルナンド・カルデロンが務めている。理事会にはラウル・プレビッシュ、ロドルフォ・スタベンハーゲン、ヴィクトル・ウルキディ、ホセ・マトス・マル等各国の学者たちが名を連ねている。

財源は「ラテンアメリカ・オリジンのもの」との規定があり、加盟機関のもちよりのほか、特に理事会の認めたものとなっている。1983年現在、会員機関の数は80機関、国の数にして17カ国にわたる。

協議会の活動は六つのチャンネルを通じて展開さ

れる。I 作業委員会および作業グループ、II 研究奨励制度、III 大学院課程の奨励、IV 個人研究への援助、V 出版活動、VI ラテンアメリカの人口に関する社会学的調査プログラム(PISPAL)、である。

作業委員会のテーマは、1 科学・技術および開発、2 都市および地域開発、3 教育と開発、4 農村研究、5 経済史、6 労働運動、7 人口と開発、8 事情研究、9 地域特別プログラム。

研究奨励金は、南部地域(Cono Sur)、アンデス地域、中米地域の3地域ならびに全地域の研究者に対し、1年単位で支給される。

出版活動としては、まず会報 *Boletín Clacso* (季刊)があるが、1980年から改題し *David y Goliath* ; *Boletín CLACSO* (半年刊)として刊行されている。このほか速報として *Carta de CLACSO* (隔月刊)が配布されている。

上記2種の会報のほか、研究誌 *Crítica & Utopía* ; *Latinoamericana de Ciencias Sociales* (季刊)が刊行され、ラテンアメリカ研究者の注目を集めている。特集テーマによる編集で、たとえば第6号「市民社会と専制」、第9号「民主化と社会運動」、第10/11合併号「過渡期のアルゼンチン」などである。

さらに最近 *Biblioteca de Ciencias Sociales* のシリーズ名の下に、個別研究も発表されるに至り、第1号として、フェリックス・グスターボ・シュスターによる『*説明と予言——社会科学における認識の効力——*』(*Explicación y predicción ; la validez del conocimiento en ciencias sociales*) が刊行された。

なお、ラテンアメリカ地域の社会科学の研究動向に対して責任をもつ関係上、各国における学術研究機関の改廃問題や、さらには先年のマルビーナス紛争についても、社会科学者集団の名において、それぞれ声明を発表している点も見落とせない。

事務局の現住所は、下記のとおり。

Avda. Callao 875, 3°-E, 1023 Buenos Aires, Argentina.